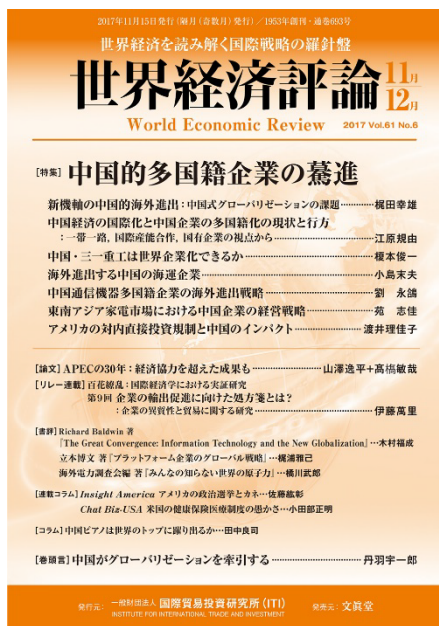


本論文は

世界経済評論 2017 年11/12月号

(2017 年 11 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



定期購読
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン販売

日本からアメリカの政治選挙を見るとどう映るのだろうか。大統領選挙では二年間も大騒ぎし、膨大なカネを使って、何度も人選を繰り返した挙句、「不正直で」(61%)、「指導能力を欠き」(55%)、「普通の人の窮状に無関心」(57%)、「怒りやすく」(66%)、「他様には見せるのも恥ずかしい」(52%) 男を選んでしまった手続きに呆れているのだろうか。カッコ内の数字は、今年4月クウィニピアク大学の世論調査によるトランプ評定である。

「何度も人選を繰り返した挙句」云々は、著名な英国の動物行動学者リチャード・ドーキンズが G.W. ブッシュについて言ったことだ。「不正直」は要するに「ウソ」だが、それについてはいくつか集計がある。仮にワシントン・ポスト紙によると、トランプが大統領就任から100日の間についたウソは492件に及ぶ。

ちなみに、選挙費用は、「公共政策に対するカネの影響」を調査する The Center for Responsive Politics のウェブサイト OpenSecrets.org にある。これによると、2016年の大統領選挙の出費は24億ドルだった。

Fox News を揶揄

こんなことを書くことにしたのは、この7月終わり、アル・フランケン上院議員（ミネソタ州、民主党）の新作 *Al Franken: Giant of the Senate* を夏休み先、小鳥の囀り以外は音のない友人の山荘で読んだためだ。フランケンテレビのコメディアンとして名を馳せてから政治家に転じた人だが、コメディ分野にいたのは35年という。これは友人とやるのを高校時代から好きだった。

何人かの共演者とともにフランケンの名を高めたのは、NBCのテレビ番組 Saturday Night Live で1970年代後半以後である。この場合のコメディは、昔、日本の占領下のNHKラジオ番組「日

曜娯楽版」に似て、風刺に近い。「日曜娯楽版」はサンフランシスコ平和協定が批准されると吉田茂首相の直接干渉で打ち止めとなった、と子供の頃ながら記憶する。フランケンはこの番組では出演し脚本も書いた。また、映画脚本も書き、映画を作った。

新著は7冊目の著作で、ニューヨークタイムズ紙のベストセラー・リストに出た5冊目となる。2003年の *Lies and the Lying Liars Who Tell Them* は副題に *A Fair and Balanced Look at the Right* とある。これは1990年代後半に登場、右翼の偏った見方を堂々と放送し、暴言に近いデタラメを混ぜた「ニュース」コメントでたちまち大手テレビ放送にのし上がった Fox News が標榜した Fair and Balanced を皮肉るものだった。これに対して Fox News はフランケンを提訴したが、連邦地裁判事から笑い飛ばされた。それがこれをベストセラーにする一助となったという。

この *Lies and the Lying Liars* は、フランケンが母校ハーバード大学の Kennedy School of Government のフェローとして招かれ、何をしてもいいと言われ、14名の大学生と集めた「ウソ集」に基づいている、とフランケンが自ら述べている。

ちなみに、Fox News の会長 Roger Ailes は、ジョージ・ブッシュが大統領になると、「私のおかげだ」とブッシュにうそぶいたと言われる人だが、Fox News の大看板となった Bill O'Reilly とともにセクハラ訴訟で、Ailes は昨年、O'Reilly は今年、辞任を余儀なくされた。

政治自伝

フランケンの新著は政治自伝で、400頁の4分の3は上院議員に立候補し、当選し、議員となった政治家としての実際を詳しく述べている。

フランケンが政治家になろうと考えたのは、

Saturday Night Live で人気が高まった頃というから 20 歳代の後半だが、直接には、2002 年、ミネソタ州のポール・ウェルストーン民主党上院議員が再選挙運動の最終盤で乗っていた小型飛行機が墜落、奥さんと一人の子供がスタッフの二人とともに死んだことにある。フランケン は進歩派の指導的者ウェルストーンを強く支持して選挙運動もやっていた。しかし、突然の事故死のため民主党が急遽仕立てたモンデル元副大統領は共和党候補ノーム・コールマンに負けた。しかも、コールマン議員が「私はウェルストーンより 99% 優れている」と発言したことに腹を立て、2007 年上院議員に出馬した。

その結果、最初の開票では僅差ながらコールマン議員に負けた。しかしミネソタ州では票差が投票数の 0.5% 以下である場合は投票数の再集計を求めるができる。そこで再集計を求めたところ、票差が逆転、312 票の僅差ながらフランケンがコールマンの得票を上回った。この結果を見てコールマンは訴訟し、ミネソタ最高裁が最終判決でフランケンを勝ちとしたのは 6 月だった。総投票数 290 万の中の 312 票差はアメリカ上院選挙史上では最小のものだったという。

カネに追われる政治家

選挙はアメリカが民主主義の根底として誇り、その推進のため他国に戦争を仕掛けかねないほどだが、政治選挙には多額の費用と多数の日数が必要だ。2016 年の大統領選挙は先に見たので、上下両院選挙を見ると、総額 40 億 6000 万ドル、下院議員の平均は 50 万ドル、上院議員の平均は 150 万ドルだった。ただし、これは立候補者総数で出費総額を割った数で、当選可能性の高い立候補者に限るともっと高くなる。

2008 年の選挙のためにフランケン は選挙資金

として 2300 万ドルを募ったと述べている。統計でも、フランケンが 2250 万ドルの資金を集め、コールマンが 2360 万ドル、他の立候補を加えてミネソタ合計で 4940 万ドルとある。同年の上院議員選挙では同州のこの選挙が一番金のかかった選挙だった。

フランケン は、自分の場合、90% が自発的な支持者の少額寄付によるというから、残りが金持ちの寄付によることになる。この本の一章を、そうした金持ちに対する寄付説得電話に当てている。要するにねだりだが、金持ちの寄付者 (donor) について、個々の収入や、それまでの寄付歴、その癖は何かなどを掲載したリストを控えた助手を横に座らせて、次々に電話する。これは一日平均 3 時間、場合によっては一日中をそれに費やす。コメディアンだったフランケンはこの作業中にコーラスを空想して歌わせるとユーモアを交えて述べるが、実際には冗談ではない。

周知のように、アメリカの下院議員は全てが、また上院議員は 3 分の 1 が、2 年ごとに選挙に直面する。そのため下院議員は議員になると直ちに次の選挙資金集めにかからなければならない。任期が 6 年の上院議員は多少は息をつく余裕があるうが、選挙のためのカネ集めがアメリカ政治のガンと言われる所以である。2016 年の大統領選挙では、ヒラリー・クリントン民主党候補が、多額 donors との会合に時間を当てすぎ、支持の弱い地方での集会和演説を怠ったことが敗因になったと、選挙戦略から外されたご夫君のビル・クリントン元大統領が憤慨したと伝えられる。

フランケン は、それでも政治家として自分の州民に仕えることの喜びを超えるものはない、特に「下司 (jerk)」のトランプが大統領になった現在ではそれが大切だと言う。

さとう・ひろあき ジャパン・タイムズ コラムニスト